

授業紹介「シラバス」

授業科目名：講読中世 B	単位数：2
担当教員名：川島朋子	
対象学生：国文1・2	
副題 室町時代の喜劇—狂言を読む	
<p>授業の到達目標 狂言の歴史を理解し、江戸時代に書かれた台本によって、作品を読み解く。流派や台本の種類を把握した上で、自ら台本に当たって注釈的に解説する能力を養う。調査結果をまとめ、分かりやすく示す方法を考え、基礎演習A・Bや演習I A・Bにもつながる能力を身につける。期末レポートだけでなく、何度か課題を課し、その提出による評価も重視する。文章の意味を理解するだけでなく、舞台芸術、喜劇としての性質も念頭に置いて、総合的な作品理解ができるようにする。</p>	
<p>授業の概要 狂言の歴史や性質について、講義形式で解説する。また狂言の流派や現在残っている台本について理解し、具体的に江戸時代に書かれた台本を中心に、作品の解説を行う。語彙の意味を調べるところから、作品全体の把握まで段階的に行えるよう指導する。受講人数によって、個人発表、グループ発表等行う予定である。人数が多い場合も、全員が同じ手順を学べるよう、レポート提出などにより指導を行う。狂言は演劇であるので、実際の現在の舞台映像なども使い、より深い理解につなげる。</p>	
<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要 2. 狂言の性格 3. 狂言の歴史—室町時代の狂言— 4. 狂言の歴史—近世以降の狂言— 5. 狂言の流派と台本 6. 狂言のことば 7. 狂言を読む—語彙から読み解く— 8. 狂言を読む—流派による違い— 9. 狂言を読む—登場人物に注目する— 10. 狂言を読む—中世の時代背景— 11. 狂言を読む—狂言の笑いの性質— 12. 狂言を読む—演出に注目する— 13. 狂言を読む—台本の変遷— 14. 狂言を読む—『わらんべ草』の記述から— 15. まとめ 	
<p>授業時間外の学習について 各時間の講義内容を、その都度よく振り返り、理解すること。また授業期間内に発表や小レポートを課した場合は、期限を守って取り組むこと。</p>	
<p>学生へのメッセージ 授業には真剣な態度で臨むこと。他の学生に迷惑をかけるような行為は許されない。室町時代の喜劇である狂言は、その台本は一見難しいそうではあるが、内容に触れてその楽しさを理解し楽しく学んでほしい。また京都では、実際の狂言の舞台を見ることも可能なので、積極的に生の舞台にも触れて理解を深めてほしい。</p>	
<p>教科書 なし 授業中に配布のプリントによる。</p>	
<p>参考書 小山弘志ほか『岩波講座 能・狂言 V 狂言の世界』、岩波書店、1987年</p>	
<p>評価方法 レポート 60 授業内容を踏まえ、テーマに沿って作成、期末に提出する。授業の理解度をはかる。 発表・小レポート 20 授業期間内の発表や小レポート提出により評価する。授業参加状況 20 出席状況、授業態度により評価する。</p>	
<p>京女 AL アクティブ・ラーニング区分 振り返り、授業時間外学習を主に実施する。場合によってはグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションも取り入れる。</p>	